

【技術分類】 2-1-1-1 種別栽培方法／腐生性菌／キシメジ科ツエタケ属

【技術名称】 2-1-1-1-1 ヌメリツバタケ (*Oudemansiella mucida*)

【技術内容】

1 生理特性

菌糸の成長温度は 5～30℃で、24～26℃でもっともよく成長する。子実体の発生温度は 10～25℃で発生し、18～21℃でもっともよく発生する。春から秋、広葉樹の枯れ木や倒木に生え、白く強い粘りけのあるきのこである。時には傘の中央部が肌色あるいは灰色になることがあり、表皮がはがれやすい¹⁾。

2 原木栽培

自然ではブナなどの広葉樹原木に発生するため、原木栽培が可能であると考えられるが、原木栽培で子実体が発生した報告はない。

3 菌床栽培

おがこは広葉樹だけでなく、針葉樹、イネわらも使用できるが、広葉樹の方が発生が良好である。

ブナオガ：米ぬかを体積比で 4：1 で混合し、含水率を 63%に調整した 1.2kg 袋培地を殺菌し、でヌメリツバタケ菌糸を接種した。温度 25℃、湿度 70%の条件下で培養し、培養期間毎の発生量を調査したところ、50 日程度の培養が良好で、1 菌床当たり 150 g を超える発生が認められた(表 1)²⁾。

また、同様にスギオガ：米ぬかを 4：1 の割合で混合した培地を、850ml のポリプロピレン製ビンに詰めて栽培試験を行ったところ、子実体は発生したが発生量は少なかった(図-3)。

【図】

表 1 ヌメリツバタケ発生試験

培養期間	菌床数	子実体発生数	子実体発生量(生重)
日	個	個／菌床	g／菌床
3 8	1 0	1 3. 1	5 4. 5
5 3	1 0	4 3. 8	1 5 8. 4
6 8	9	2 9. 9	1 2 7. 2
8 3	1 0	3 2. 2	1 5 5. 4

出典：「ヒラタケ等食用きのこの育種と栽培技術の高度化」、平成 5 年度業務報告書 第 31 号、1994 年 7 月 20 日、西井孝文著、三重県林業技術センター発行、23 頁 表-2 ヌメリツバタケ発生試験

【出典／参考資料】

- 1) 「ヌメリツバタケわら栽培」、図解やさしいきのこ栽培、1985 年 5 月 1 日、財団法人日本きのこセンター編、社団法人家の光協会発行、189-195 頁
- 2) 「ヒラタケ等食用きのこの育種と栽培技術の高度化」、平成 5 年度業務報告書 第 31 号、1994 年 7 月 20 日、西井孝文著、三重県林業技術センター発行、23-24 頁